

日本YMCA同盟

THE  
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.808 2021

2021年7月1日発行（毎月1日発行）  
1947年10月27日 第三種郵便物認可  
本体価格45円（外税）（送料63円）  
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟  
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号  
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641  
URL : <https://www.ymcajapan.org/>  
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

## 試行錯誤を繰り返し、 子どもたちと学んだ4日間

—Amazon Future Engineerを企画・運営して感じたこと—

盛岡YMCAボランティアリーダー 十文字 堅斗

盛岡YMCAでは、3月にAmazon Future Engineer「プログラミング体験会ホームページ作成を楽しく学ぼう!!」を実施しました。このプログラムは、大都市圏に比べて、小中学生を対象としたプログラミングを学ぶ機会が少ない岩手の子どもたちにプログラミングを学ぶ機会を提供すること、そしてコロナ禍で様々な活動が制限されている子どもたちとの交流の機会となることをめざしています。盛岡YMCAには岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学など県内の大学、専門学校に通う学生が約100名ボランティアとして登録していますが、コロナの影響で思うような活動ができていません。そのような中、1、2年生を中心に10名のタスクチームを結成してプログラミング体験会の企画・開催準備を行いました。



Amazon Future Engineerは、様々な環境にある青少年に「誰でもテクノロジーで世界を変えられる」体験を提供するプログラムです。盛岡YMCAでは初めての開催だったので、すでに実施した横浜YMCAと和歌山YMCAの担当の方へインタビューをしました。インタビューでは、クラスでの子どもたちの様子や、子どもたちが楽しんで取り組むために気をつけることなどをうかがうことができ、アイスブレイクや休憩時間でのミニゲーム、アルファベット表などを工夫して準備することができました。

開催期間は子どもたちが春休みの時期である3月22日から3月25日に行いました。クラスではプログラミングの基本を学び、それぞれがオリジナルWebサイトを制作、最終日には発表会も行いました。準備の段階から、ただプログラミングを進めるのではなく、リーダーとの関わりも大切にしたいと思っていました。小学生は日を追うごとにリーダーとの時間を楽しみに参加している様子が伝わってきました。中学生もクラス終了後もリーダーとおしゃべりを続ける様子が見られ、プログラミングだけではなくリーダーとの時間を楽しんでくれました。オリジナルWebサイトの内容もさまざまで、リーダーとの会話の中から「この内容にしたい!!」と決めた子もいました。子どもとリーダーと一緒に考え、楽しみながらサイトを作っていくことができたと感じています。

今後は障がい者施設や障がい者学級を訪問してプログラミング体験を行ったり、大学生との関わりを必要としている年代である中高生に向けてプログラミング体験会を通して青少年の成長に貢献していきたいと考えています。

（岩手県立大学総合政策学 3年）



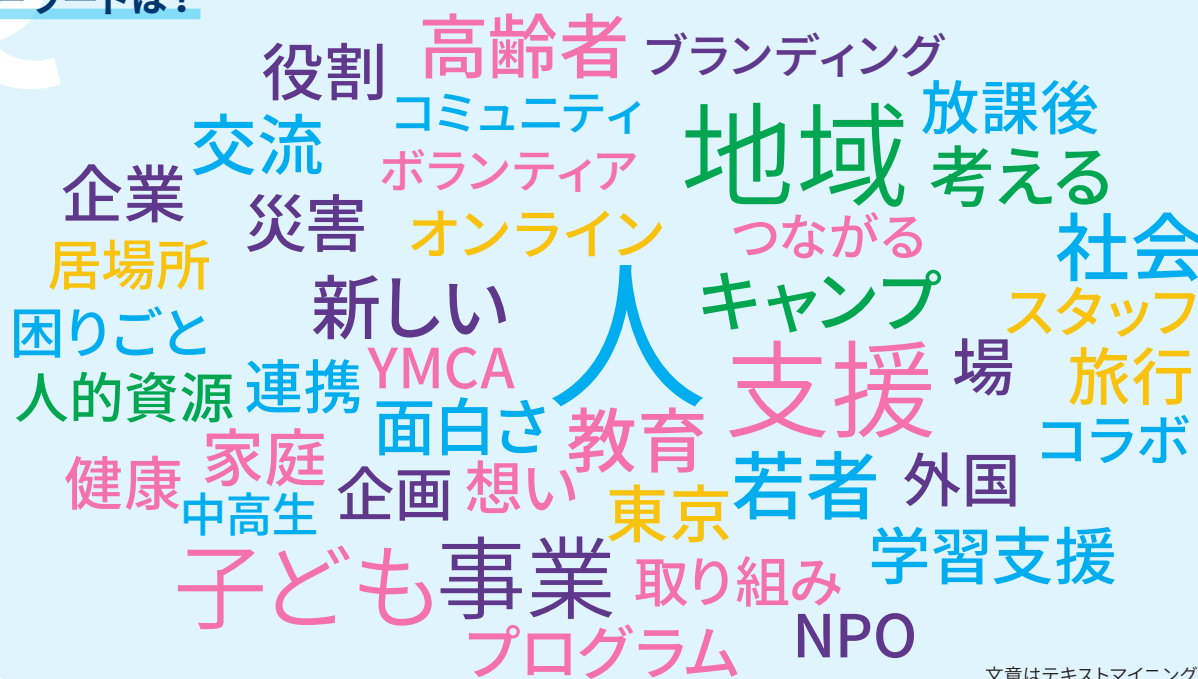
●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。 <https://www.ymcajapan.org>

# 日本YMCA中期計画 (2021-2023)

「光は暗闇の中で輝いている」  
(ヨハネによる福音書1章5節)



地域の中での「これからのYMCA」  
キーワードは？



文章はテキストマイニングで表しています。

## 1 Positive well-being

Positive well-beingを提唱し、「みつかる。つながる。よくなっていく。」の体験提供を通して全人一貫教育の価値を最大化し、社会の健康を目指す。



## 2 Youth Empowerment

若い世代が夢を持ち、自己実現のために参画できる社会を創造する。YMCAは若者の信頼できるパートナーとして、時代に適し姿を変える。

予測のつかない羅針盤のない世界において、正義感と時代を読む感性に突き動かされ行動し、新しい未来を創造していく姿はYMCA創設時の姿である。閉塞感のある若い世代が夢をもって、自己実現のために参画できる社会を創造できる機会を創り出していく。

また、新しいことにチャレンジしたいという若いスタッフ・リーダーが、歴史や慣習による「YMCAらしさ」や制度に縛られることなく、恐れず挑戦できる組織を作る。同時に、ユース世代の学びや生活の環境、メンタルヘルスについて注視し、支援していく。そして、YMCAは若者の信頼できるパートナーとして、時代に適し姿を変える「適応型YMCA (Adaptive YMCA)」となることで持続可能となる道筋を求め、健全運営・健康経営を目指していく。

## 3 Technology for social inclusion & diversity

インクルーシブな社会の実現のために、あらゆる場所でテクノロジーを活用し、多様なオンラインコミュニティのプラットフォームとなる。

テクノロジーの急速な拡大により、オンライン上で多様なコミュニティ (共同体) が生まれ、より手軽にグローバルな規模で、学校、職場、家庭ではない自己実現や社会参画が可能となっている。

YMCAはオンラインを健全かつ建設的に活用し、生きる喜びにつながるテーマや社会課題でつながるコミュニティ (共同体) 創造のインクルーシブなプラットフォームとなる (ymca.positive.net構想)。

身近な興味関心や悩みには社会を動かす多様な視点が含まれ、オンラインでの伴走とオフラインでの実行力を掛け合わせたコミュニティ活動は、多様性と包摂性のある社会創造につながる。

同時に、テクノロジーを取り入れて業務の合理化・効率化を図るとともに、地域のデジタル格差による学び、健康、経済活動などの機会損失について、事業・活動のオンライン化を可能な限り進め、支援を行っていく。

## 5 Change Agent

未曾有の世界危機において、YMCAに関わる一人一人がポジティブネットの実現のために地域、世界の課題に臨み、Change Agent (Global Servant) の育成に注力する。

世界規模で社会的弱者のいのちが脅かされ、若者や高齢者、課題を抱える人たちが脆弱な立場に追い込まれている。自国の対策を優先させる中で、途上国の貧困対策、教育支援が大きく遅れている。また、世界的に民主主義の根幹が揺らぎ、一方で下からの変革を求めてゆく市民セクターの力が増している。

わたしたちのいのちが誰かのいのちや人権の犠牲の上に成り立つことがないよう、YMCAに関わる一人一人が足元のコミュニティで、そして世界で、見えざるものに想像力を向け、声なき声を取り、YMCAがポジティブネットを届けるべき先を考え、行動していかなければならない。

また、若い人が将来の世界を背負うため、グローバル社会と環境の課題を深く理解し、解決していくために必要な教育や研修、実践の機会を作り出していく。YMCAのグローバルネットワークを生かし、世界中の次世代リーダーとの協働を通して複雑な課題を解決し、地域でも、世界でも活躍できる真のChange Agent (Global Servant) の育成に注力していく。

## 4 Partnership

地域社会の課題に対し、企業や行政、地域の諸団体をパートナーとし、時にかなったスピード感をもって解決に臨む。

YMCAには地域社会の課題について、世界の持続可能な開発目標 (SDGs) の健康、気候変動、平和、メンタルヘルス、ジェンダーなどの視点を持って解決できる資源が多くある。YMCA単独ではなく、パートナーであるワイズメンズクラブ、そして目的を同じくする企業や行政、地域の諸団体と対等なパートナーシップを組み、それぞれの特性を生かして共に解決に臨んでいく。これは、関係性の中でYMCAの役割を見出し、地域・社会のレジリエンスを高めていく働きとなり、実践的なアドボカシーである。

目的が具体的に明確な社会課題解決活動、ダイナミックなパートナーシップは、理想を求める中学生・高校生など若い協力者に訴求し、テーマで協働する会員、ユースリーダーや学生YMCAの活動の展開にもつながる。YMCAの社会貢献活動の資金的裏付けも明確となり、「寄附を受ける団体」として社会的認知度も向上する。



世界を  
よりよくするために  
私が心がけていることは？

スーパーで、手前にある  
商品から購入すること。

環境に優しい生活。

一隅を照らすこと。

毎日、仕事に行って丁寧に働くこと。  
良いと思う物にはお金を使うこと。

毎日身近なひとに「今日も一日  
ありがとうございました」という。

相手をリスペクトすること。  
子どもとも対話をする  
心がけています。

相手を大切にすることを  
伝えることでしよう。

そこにいる他者の世界を  
理解することから  
始めるしかない。

この世界で起きていることを  
「自分事」として捉える。  
無関心にならない。

偏った情報で  
判断しないこと。

やさしい日本語の  
研修会。

最も小さな者の一人に寄り添うこと。  
2017年4月より所属教会で地域ボランティアと共に、  
週1回生活困窮者のための食事提供 (現在は弁当配布) を  
続けています。

自分らしく生きる。

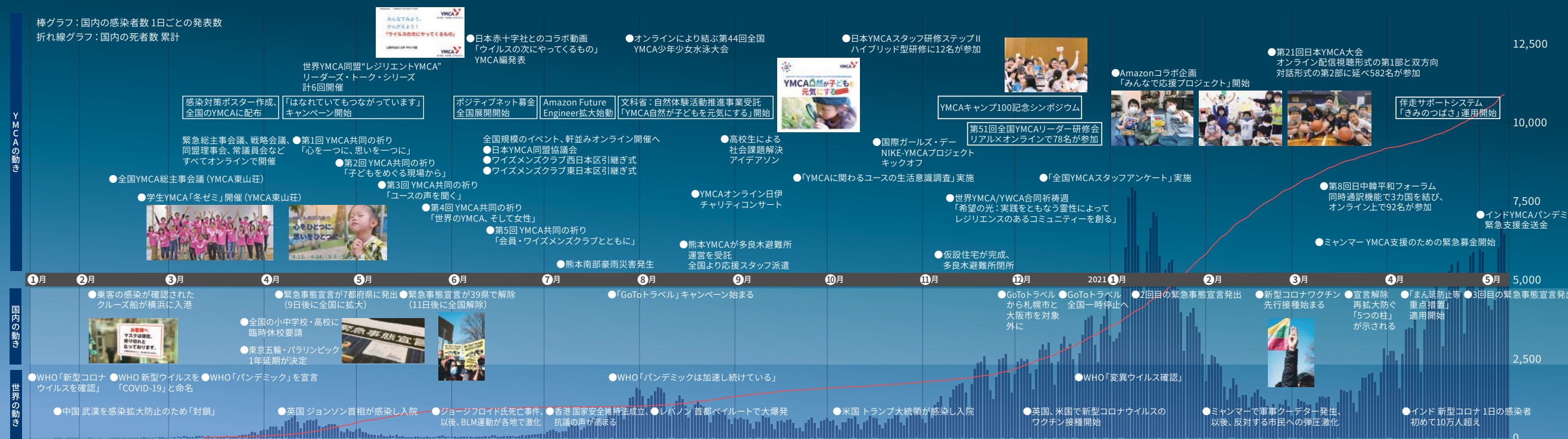
(2021年5月実施 日本YMCA同盟代議員アンケートよりアレンジ)

## IMPACT OF COVID-19

# 一目でわかる2020

創立時からのブランドロゴを変え、「みつかる。つながる。よくなっていく。」ことを新たに決意した私たちは、新型コロナウイルスの世界的な拡大によって、もっとも大切な人と人とのつながりが絶たれるという未曾有の危機に直面することとなりました。次々と地域社会の課題が浮き彫りになる中、活動の現場で、職員、会員、関係者が「ポジティブネットの実現の姿」を思い描き、突き動かされるように行動し、灯を掲げ、いまま抱い続けています。この戦後最大といわれる危機において、YMCAの価値が地域社会から切実に求められていることを全国のYMCAが確信しています。

「光は暗闇の中で輝いている」。この聖句のもと、2021年から新たな日本YMCA中期計画 (2021-2023) がスタートします。YMCAから隣人、地域、世界に広がっていくポジティブネットのビジョンは、いまこそ人をひきつけ、かけがえない場所となることを信じて、オールジャパンYMCAの力を結集して、力強く前進します。



# オンラインで国際交流 初めて聴くスウェーデン語にワクワク

神戸YMCA学院専門学校、神戸YMCA高等学院では、スウェーデンのヘルションスクールとの国際交流として、オンラインワークショップを行いました。

スウェーデンには「folkhögskola」という、大学に進学するために必要な単位や資格を取りたい人、技術を学びたい人など、様々な目的を持った人（17歳以上で70歳以上の方も！）が学べる学校があります。

このワークショップは、ヘルションスクールで日本語を学んでいる学生が来日し、神戸YMCAのユースと交流する計画でしたが、コロナ禍で来日できず、それならば「オンラインで会おう！」と企画されたものです。

ヘルションスクールで日本語を学んでいる学生と、初級日本語の会話練習をしたり、お互いの共通点を探したり、簡単なゲームをしました。スウェーデンってどんな国？日本については、どんなことを知っているの？言葉で上手く伝えられなくても、絵を描いたり、文字を書いて見せたり、ジェスチャーを駆使して会話を楽しみました。

今回2回目となったヘルションスクールとのワークショップには前回は参加した学生たちがおり、嬉しい再会を果たしました。本来であれば、対面での交流だったのですが、実現まではオンラインでの交流です。コロナが収束し、直接会いに行ける日を楽しみにしています。 神戸YMCA 川北 陽子



## 「生きていることのすばらしさは気づきにくいということも、わたしは知っている」

### 絵本『二平方メートルの世界で』前田海音さんインタビュー

絵本『二平方メートルの世界で』は、札幌YMCA幼稚舎卒園児で、元アフタースクールメンバーの前田海音さん（当時小学3年生）が書いた作文をもとに、この4月に小学館より出版されました。この作文は、『第11回子どもノンフィクション文学賞（北九州市主催）』の小学生の部で、満場一致で大賞に選ばれた作文です。

海音さんが、この作文を書くきっかけとなったのは、海音さん自身が抱えている病気の治療のため入院した際、病室のベッドに備え付けてある机の裏の落書きを偶然見つけたことにあります。海音さんはこの出来事を『奇跡』と語ってくれました。そして『たくさんの人にこのことを伝えるのが自分の使命だ』と感じ、絵本にすることを決意したそうです。

絵本には、「病気と闘っているのは自分だけではない」、「生きることの素晴らしさは気づきにくい」など、病気であっても元気でいられた秘訣が描かれています。また海音さんは、絵本の最後に「私らしく生きていく」と綴っています。

私らしく生きるとは「自分のやりたいように生きて、自分の気持ち通りにすすむ人生のこと」と一つ一つの言葉を力強く語ってくれたことが印象的でした。



また、海音さんの兄・海杜さん（中学2年生）も、今年の『第12回子どもノンフィクション文学賞』中学生の部で、リリー・フランキー賞を受賞しています。兄妹そろっての快挙を受け、お母さんにお話を伺いました。

作文については、特に「何かをした」とか「何かを勧める」ことはしなかったといいます。二人の共通点は「本が好き」なことで、たくさん本を読む海杜さんに対し、本は読むけれど同じ本を繰り返し読み続ける海音さん。自分を表現する手段として不器用さを抱える二人が、消去法で残った手段が「書く」ことのように。特に海音さんは、「話す」ことよりも一度自分の中に落として、自分の気持ちを書いた方が自分を表現しやすいそうです。

そして、最後にお母さまより「（兄妹）二人のように不器用だったり、人よりサポートが必要だったりする人たちは、YMCAのようにいろんな面でたくさんの方と関われる所で育ててもらえて幸せだった」とコメントをいただきました。

「将来の夢は院内学級の先生になりたい」。そんな海音さんの夢をYMCAはこれからも応援します。

北海道YMCA 加納 昌枝

## 新入リーダー歓迎 / 自然の中で フォトコンテスト開催!



新型コロナウイルス感染拡大から、1年以上の月日が流れました。しかし、まだまだコロナ禍の制限措置は続いています。このことは子どもたちとの活動だけではなく、大学生のリーダーたちにも大きな影響を与えています。大学生活やアルバイト、ボランティア活動などのいろいろな活動への参加に制限がかかったリーダーも多く、YMCAのリーダー会においても、関係構築に苦戦を強いられる1年でした。

そのようななか新しい年度を迎えて、姫路YMCAには新しいリーダーが10名も加わってくれました。「新入リーダーの歓迎会をしよう!」とリーダーたちから声が上がリ、5月30日に実施しました。自己紹介やアイスブレイクのゲームを通して、緊張気味だった新入リーダーたちにも笑顔が見られ始めました。また、小グループに分かれ「YMCA太子遊びと冒険の森」を回って、フォトコンテストを行い、日頃の活動拠点を知る機会にもなりました。参加してくれた新入リーダーからは「いろんな話ができて楽しかった! 子どもとの活動も楽しみ」との声が聞かれました。

大学の講義もリモート形式が増え、リアルで人と交わることがなかなかできない大学生もたくさんいます。姫路YMCAでは子どもたちの活動とともにリーダーたちのメンタルケア、そして関係構築の場も引き続き作っていきたいと思っています。

姫路YMCA 有安 紀

